

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2005-104558

(43)Date of publication of application : 21.04.2005

(51)Int.Cl.

B65D 27/00

B42D 11/00

B42D 15/08

B65D 27/30

(21)Application number : 2003-343084

(71)Applicant : DAINIPPON PRINTING CO LTD

(22)Date of filing : 01.10.2003

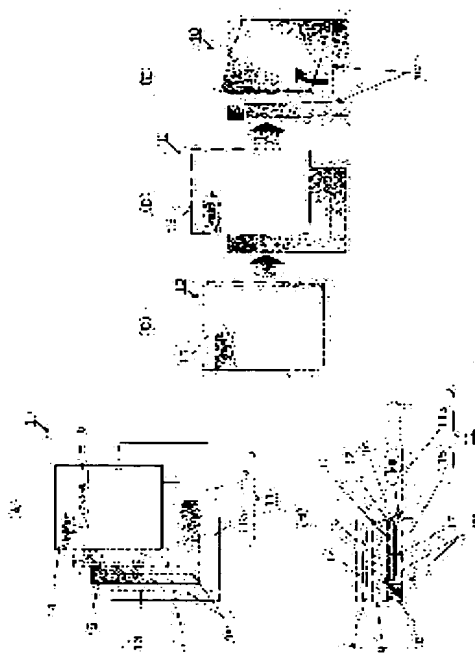
(72)Inventor : SHIMIZU YUJI

## (54) SECURITY ENVELOPE

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a security envelope which keeps cost not too high even though it is for security use and which is highly convenient for actual users (a sender side and a receiver side).

**SOLUTION:** The security envelope 10 comprises upper and lower envelope layers 11a and 11b forming a bag-like envelope 11 by being folded, an adhesive layer 12 formed on the upper part of the envelope 11, a transparent base material 13 disposed on the adhesive layer 12 and used for sealing the envelope 11 with the adhesive layer 12, a copy 14 of acknowledgement on the sender side which is disposed on the transparent base material 13, a copy 15 of acknowledgement on the receiver side which is disposed on the transparent base material 13; a separator 16 which is disposed between the envelope 11 and the adhesive layer 12 and protects part of adhering force of the adhesive layer 12, a back carbon 17 for selectively copying information written on the copy 14 of the acknowledgement on the sender side onto the upper envelope layer 11a and/or lower envelope layer 11b, and a false adhesive structure 18 for separably joining the transparent base material 13 and the copy 15 of the acknowledgement on the receiver side.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

(19) 日本国特許庁(JP)

## (12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-104558

(P2005-104558A)

(43) 公開日 平成17年4月21日(2005. 4. 21)

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>

F 1

テーマコード (参考)

B 6 5 D 27/00

B 6 5 D 27/00

R

B 4 2 D 11/00

B 6 5 D 27/00

J

B 4 2 D 15/08

B 4 2 D 11/00

J

B 6 5 D 27/30

B 4 2 D 15/08

B

B 6 5 D 27/30

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2003-343084 (P2003-343084)  
 (22) 出願日 平成15年10月1日(2003. 10. 1)

(71) 出願人 000002897  
 大日本印刷株式会社  
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
 (74) 代理人 100092576  
 弁理士 鎌田 久男  
 (72) 発明者 清水 雄二  
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
 大日本印刷株式会社内

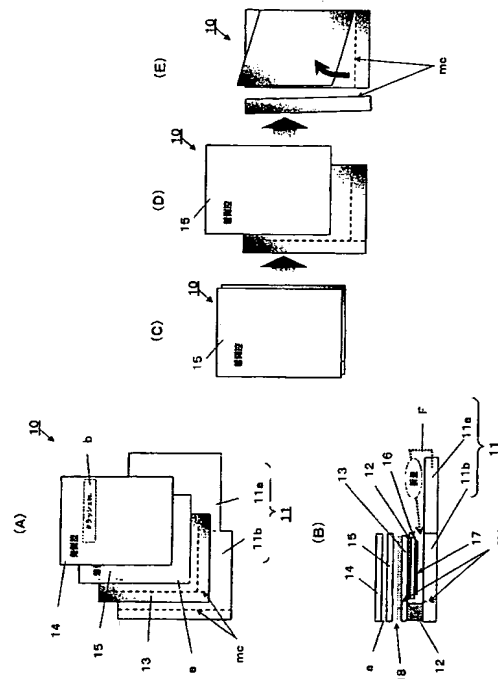
(54) 【発明の名称】 セキュリティ用封筒

## (57) 【要約】

【課題】セキュリティ用途でありながら、コストが高くならず、また、実際の使用者（発側、着側）の利便性が高いセキュリティ用封筒を提供する。

【解決手段】セキュリティ用封筒10は、折り畳まれて袋形状の封筒部11となる上側及び下側封筒片11a、11bと、封筒部11の上側に形成された粘着層12と、粘着層12の上側に配置され、その粘着層12を用いて封筒部11を封緘する透明基材13と、透明基材13の上側に配置され発側の控えとなる発側控え片14と、透明基材13の上側に配置され着側の控えとなる着側控え片15と、封筒部11と粘着層12との間に配置され、粘着層12の一部の粘着力を保護するセパレータ16と、発側控え片14に記載した情報を、上側封筒片11a及び／又は下側封筒片11bに選択的に複写する裏カーボン17と、透明基材13と着側控え片15とを剥離可能に接着する擬似接着構造18等とを備える。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

折り畳まれて袋形状の封筒部となる上側及び下側封筒片と、  
前記封筒部の上側に形成された粘着層と、  
前記粘着層の上側に配置され、その粘着層を用いて前記封筒部を封緘する基材層と、  
前記基材層の上側に配置され発側の控えとなる発側控え片と、  
前記基材層の上側又は下側に配置され着側の控えとなる着側控え片と、  
前記発側控え片に記載した情報を、前記上側封筒片及び／又は前記下側封筒片に選択的に複写する複写構造と、  
を備えるセキュリティ用封筒。

10

**【請求項 2】**

請求項 1 に記載されたセキュリティ用封筒において、  
前記上側封筒片及び／又は前記下側封筒片は、前記着側控え片であること、  
を特徴とするセキュリティ用封筒。

**【請求項 3】**

請求項 1 又は請求項 2 に記載されたセキュリティ用封筒において、  
前記粘着層の一部を保護するセパレータを前記封筒部と前記粘着層との間に備えること、  
を特徴とするセキュリティ用封筒。

**【請求項 4】**

請求項 1 から請求項 3 までのいずれか 1 項に記載されたセキュリティ用封筒において、  
前記基材層及び／又は前記下側封筒片は、前記封筒部を開封するための開封予定線を備えること、  
を特徴とするセキュリティ用封筒。

20

**【請求項 5】**

請求項 1 から請求項 4 までのいずれか 1 項に記載されたセキュリティ用封筒において、  
前記基材層に設けられた前記開封予定線は、前記着側控え片に覆われており、  
前記着側控え片は、一部又は全面で剥離可能な擬似接着構造を介して前記基材層と接着されていること、  
を特徴とするセキュリティ用封筒。

30

**【請求項 6】**

請求項 1 から請求項 5 までのいずれか 1 項に記載されたセキュリティ用封筒において、  
前記開封予定線は、前記封筒部の一部を切り離すように設けられていること、  
を特徴とするセキュリティ用封筒。

**【請求項 7】**

請求項 1 から請求項 6 までのいずれか 1 項に記載されたセキュリティ用封筒において、  
前記上側封筒片及び／又は前記下側封筒片には、前記複写構造により、前記発側控え片及び／又は前記着側控え片と共通した識別番号又は識別記号が形成されること、  
を特徴とするセキュリティ用封筒。

**【請求項 8】**

請求項 1 から請求項 7 までのいずれか 1 項に記載されたセキュリティ用封筒において、  
前記基材層は、透明又は半透明であること、  
を特徴とするセキュリティ用封筒。

40

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、請求書、手形、小切手等の金券又はそれに類する貴重品を配達するときに使用する新規なセキュリティ用封筒に関するものである。

**【背景技術】****【0002】**

50

従来、この種のセキュリティ用途の封筒は、所定の封筒に必要事項を記入した「専用伝票」又は「汎用伝票」をタック紙で貼り付けて使用していた（例えば、特許文献1）。

【0003】

しかし、前述した従来技術では、専用伝票は、数量が汎用伝票ほど多くないためコスト高となり、汎用伝票は、伝票の記載事項が汎用的であるため、枚数が無駄に多かったり、記載内容が外部から見えてしまったりして、セキュリティ用途としては、必ずしも適切なものではなかった。

【0004】

また、前記いずれの場合でも、それらの伝票は、タック紙を介して封筒に貼り付けるようにしていたため、無駄なコストを生じさせていた。

ただし、セキュリティ用途の封筒は、当然コストよりもセキュリティ性が重視されるべきであるために、高価であっても、専用伝票を使用する場合が一般的であった。

【0005】

【特許文献1】特開平8-2144号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明の課題は、セキュリティ用途でありながら、コストが高くなりすぎず、また、実際の使用者（発側、着側）の利便性が高いセキュリティ用封筒を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、以下のような解決手段により、前記課題を解決する。なお、理解を容易にするために、本発明の実施例に対応する符号を付して説明するが、これに限定されるものではない。

請求項1の発明は、折り畳まれて袋形状の封筒部（11）となる上側及び下側封筒片（11a, 11b）と、前記封筒部（11）の上側に形成された粘着層（12）と、前記粘着層（12）の上側に配置され、その粘着層（12）を用いて前記封筒部（11）を封緘する基材層（13）と、前記基材層（13）の上側に配置され発側の控えとなる発側控え片（14）と、前記基材層（13）の上側又は下側に配置され着側の控えとなる着側控え片（15）と、前記発側控え片（14）に記載した情報を、前記上側封筒片（11a）及び／又は前記下側封筒片（11b）に選択的に複写する複写構造（17）と、を備えるセキュリティ用封筒である。

【0008】

請求項2の発明は、請求項1に記載されたセキュリティ用封筒において、前記上側封筒片（11a）及び／又は前記下側封筒片（11b）は、前記着側控え片（15）であること、を特徴とするセキュリティ用封筒である。

【0009】

請求項3の発明は、請求項1又は請求項2に記載されたセキュリティ用封筒において、前記粘着層（12）の一部を保護するセパレータ（16）を前記封筒部（11）と前記粘着層（12）との間に備えること、を特徴とするセキュリティ用封筒である。

【0010】

請求項4の発明は、請求項1から請求項3までのいずれか1項に記載されたセキュリティ用封筒において、前記基材層（13）及び／又は前記下側封筒片（11b）は、前記封筒部（11）を開封するための開封予定線（mc）を備えること、を特徴とするセキュリティ用封筒である。

【0011】

請求項5の発明は、請求項1から請求項4までのいずれか1項に記載されたセキュリティ用封筒において、前記基材層（13）に設けられた前記開封予定線（mc）は、前記着側控え片（15）に覆われており、前記着側控え片（15）は、一部又は全面で剥離可能な擬似接着構造（18）を介して前記基材層（13）と接着されていること、を特徴とす

10

20

30

40

50

るセキュリティ用封筒である。

【0012】

請求項6の発明は、請求項1から請求項5までのいずれか1項に記載されたセキュリティ用封筒において、前記開封予定線（mc）は、前記封筒部（11）の一部を切り離すように設けられていること、を特徴とするセキュリティ用封筒である。

【0013】

請求項7の発明は、請求項1から請求項6までのいずれか1項に記載されたセキュリティ用封筒において、前記上側封筒片（11a）及び／又は前記下側封筒片（11b）には、前記複写構造（17）により、前記発側控え片（14）及び／又は前記着側控え片（15）と共通した識別番号（b）又は識別記号が形成されること、を特徴とするセキュリティ用封筒である。

10

【0014】

請求項8の発明は、請求項1から請求項7までのいずれか1項に記載されたセキュリティ用封筒において、前記基材層（13）は、透明又は半透明であること、を特徴とするセキュリティ用封筒である。

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、発側控え片に記載した情報を、封筒部の上側封筒片及び／又は下側封筒片に選択的に複写する複写構造を設け、基材層で封筒部を封緘したので、封筒部自体に設けられる控えの改ざんを防止できるようになり、セキュリティ性を高めることができる。

20

【発明を実施するための最良の形態】

【0016】

本発明は、セキュリティ用途でありながら、実際の使用者（発側、着側）の利便性が高いセキュリティ用封筒を提供するという目的を、封筒部となる部分は、封筒紙片を所定の形状に折り畳み、その上から全面を透明な基材で覆い、封緘することにより実現した。

【実施例】

【0017】

以下、図面等を参照して、本発明の実施例について、さらに詳しく説明する。

図1は、本発明によるセキュリティ用封筒の実施例を模式的に示す図であって、図1（A）は、構成を分解した状態の斜視図であり、図1（B）は、断面図であり、図1（C）～（E）は、運用方法を模式的に示した図である。

30

本実施例によるセキュリティ用封筒10は、封筒部11と、粘着層12と、透明基材（基材層）13と、発側控え片14と、着側控え片15と、セパレータ16と、裏カーボン（複写構造）17と、着側開封用ミシン目（開封予定線）mc等とを備える。

【0018】

封筒部11は、上質紙からなる袋形状の封筒であり、上側封筒片11aと下側封筒片11bとが折り畳まれて形成される。上側封筒片11aは、折り畳まれて下側封筒片11bに重なった場合に、下側封筒片11bにおける折り畳み辺以外の3端部（逆コの字形）が糊しろ部として表出するように、下側封筒片11bよりも小さいサイズとなっている。

40

また、本実施例では、封筒部11に、セキュリティ性の高い封入物、例えば、請求書、手形、小切手等の金券又はそれに類する貴重品を挿入するようにしてある。

【0019】

粘着層12は、封筒部11の上側に形成され、前述した下側封筒片11bの糊しろ部と剥離不可能に接着し、運用時まで使用されないそれ以外の部分は、セパレータ16に覆われ、粘着力が保護されている。

【0020】

透明基材13は、粘着層12の上側に配置され、粘着層12と剥離不可能に接着し、粘着層12を用いて封筒部11を封緘するための透明な基材である。

なお、透明基材13、粘着層12及びセパレータ16の3層部分は、その順に積層され

50

ている透明タック紙を用意し、セパレータ 16 の周縁部を逆コの字型に剥がして用いると製造しやすい。

【0021】

発側控え片 14 は、ノーカーボントップ紙からなる発側の控えとなる片であり、着側控え片 15 は、ノーカーボンボトム紙からなる着側の控えとなる片である。発側控え片 14 は、着側控え片 15 の上側に配置され、着側控え片 15 は、透明基材 13 の上側に配置されている。

発側控え片 14 と着側控え片 15 とは、ライン糊 a によって、左辺が綴じられており、着側控え片 15 と透明基材 13 とは、後述する擬似接着構造 18 によって、略全面が綴じられている。

【0022】

セパレータ 16 は、封筒部 11 と粘着層 12 との間に配置され、前述した通り、粘着層 12 の運用時まで使用しない部分の粘着力を保護するシートである。

【0023】

裏カーボン 17 は、セパレータ 16 の粘着層 12 と反対側の面に形成され、発側控え片 14 に記載した情報を封筒片 11 自体の控えとして、上側封筒片 11 a や下側封筒片 11 b に選択的に複写する構造である。

上側封筒片 11 a には、裏カーボン 17 によって、また、着側控え片 15 には、ノーカーボン紙の機能により、発側控え片 14 と共通した識別番号となるクラッシュ番号 b が形成されている。

【0024】

擬似接着構造 18 は、粘着層と剥離層とからなる擬似的な接着構造であり、透明基材 13 と剥離可能に接着し、透明基材 13 と着側控え片 15 とを綴じ合わせている。

【0025】

着側開封用ミシン目 m c は、透明基材 13 及び下側封筒片 11 b に設けられ、着側で、封筒部 11 を開封するための切り取り線である。透明基材 13 の着側開封用ミシン目 m c は、下側封筒片 11 b の糊しろ部の内側に設けられ、かつ、左端部は上下辺の端まで切り込まれている。下側封筒片 11 b の着側開封用ミシン目 m c は、透明基材 13 に設けられた左端部の着側開封用ミシン目 m c と重なる位置に設けられている。

また、透明基材 13 に設けられた着側開封用ミシン目 m c は、配送時には、着側控え片 15 に覆われ、目視不可能となる。

【0026】

次に、本実施例によるセキュリティ用封筒 10 の運用方法について説明する。

(1) 発側で、図 1 (B) に示すように、矢印 F の方向に上側封筒片 11 a を折り畳んだ後に、発側控え片 14 に必要事項を記入して、全枚目 (着側控え片 15、上側封筒片 11 a) に複写する。上側封筒片 11 a に複写された情報は、封筒部 11 自体の控えとなる。

(2) セパレータ 16 を剥がして、そのセパレータ 16 に覆われていた粘着層 12 を表出させる。

(3) 粘着層 12 を用いて封筒部 11 自体の控えを透明基材 13 でカバーすると共に、封筒部 11 を封緘する。

(4) 発側控え片 14 に、配送担当者 (例えば、ドライバー) のサインをもらい、このサインが次枚目 (着側控え片 15) に複写される。

(5) 発側で、発側控え片 14 を剥がして保管する。

(6) 図 1 (C) に示すように、配送担当者がセキュリティ用封筒 10 を配送し、着側に渡す。

(7) 図 1 (D) に示すように、着側で、着側控え片 15 を剥がし、透明基材 13 でカバーされた封筒部 11 自体の控えを透かして確認する。

(8) その後、図 1 (E) に示すように、着側開封用ミシン目 m c を用い、左端部を切り離しながら、セキュリティ封筒 10 を開封し、封入物を取り出す。

【0027】

10

20

30

40

50

このように、本実施例によれば、以下のような種々の効果がある。

(1) セキュリティ性

着側開封用ミシン目m cが着側控え片1 5で保護されており、配達時のセキュリティ性（開封事故防止）と易開封性（簡便に開封可能）とを両立できる。

封筒部1 1自体の控えを透明基材1 3でカバーする構造となるため、汚れや改ざんを防止できる。

開封時に、封筒部1 1の一部を切り離すように着側開封用ミシン目m cを設けたので、封筒部1 1が繰り返して使用されることを防止できる。

(2) 複写可能

全枚目に共通の目視ナンバーを付すことが可能である。

着側の控え、封筒部1 1自体への控えが簡単に設けられる。

発側と着側との控え片には、ノーカーボン紙を使用することにより、保管時に汚損しにくい構造である。

(3) 安定性・作業性

着側控え片1 5は、ラベル式伝票の技術を応用した擬似接着構造1 8で貼付しており、剥離時のカールも少なく、安定して使用可能である。

着側で、着側控え片1 5を剥がす動作の一環として、封筒部1 1自体の控えを剥がすことになるため、作業に無駄がない。

【0028】

(変形例)

以上説明した実施例に限定されることなく、種々の変形や変更が可能であって、それらも本発明の均等の範囲内である。

(1) 上述した実施例では、上側封筒片1 1 aを折り畳んでから、発側控え片1 4に必要な事項を記入する例で説明したが、上側封筒片1 1 aを折り畳まない展開状態のまま、発側控え片1 4に必要な事項を記入し、その後に折り畳んでもよい。このようにすれば、封筒部1 1の内部（下側封筒片1 1 b）に複写情報が設けられるようになり、その情報が内部に保護されたまま配達できるため、偽造や改ざん等を防止できる。また、これらの条件は組み合わせる使用することが可能であり、例えば、クラッシュ番号bは、展開状態のまま設けて、封筒部1 1の内部に複写させておき、発側で記入される情報は、折り畳んでから記入するようにして、封筒部1 1の外部に露出させ、かつ、その上から透明基材1 3で保護することにより、情報の偽造改ざんをより防止することも可能となる。

【0029】

(2) 着側控え片1 5を省略し（上側封筒片1 1 aや下側封筒片1 1 bに記載された封筒自体の控え片を着側控え片として流用する。）、発側控え片1 4と透明基材1 3とを擬似接着構造で剥離可能に一体化させてもよい。

(3) 発側控え片1 4と着側控え片1 5とには、ノーカーボン紙を用いる例で説明したが、裏カーボンを複写構造として使用してもよい。

(4) 着側開封用ミシン目m cの位置や形状は、利用者の要求に沿って工夫してもよく、また、各封筒片の折り畳み片形状は矩形に限定されない。

【0030】

(5) 封筒片自体は一部ではなく、折り畳まれた状態で、全面が透明基材1 3より小さくなるように構成してもよい。

(6) 透明基材1 3は、複写情報を保護する場合に用いるべきものであって、透明基材1 3の貼り込まれる面が複写されない場合は、不透明なタック基材を使用してもよい。

(7) 封筒部1 1の内側の面に、暗色の着色層を形成してもよい。金券としてほとんど存在しない墨系インキ等でベタ印刷を施しておくことにより、目視によって簡単に、封入物の取り忘れを防止することができる。

(8) 識別番号は、クラッシュ番号の例で説明したが、バーコード等の識別記号を用いてもよい。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 1 】

【 図 1 】 本発明によるセキュリティ用封筒の実施例を模式的に示す図である。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 2 】

1 0 セキュリティ用封筒

1 1 封筒部

1 1 a 上側封筒片

1 1 b 下側封筒片

1 2 粘着層

1 3 透明基材

1 4 発側控え片

1 5 着側控え片

1 6 セパレータ

1 7 裏カーボン

a ライン糊

b クラッシュ番号

m c 着側開封用ミシン目

10

【 図 1 】

